

議会だより

No.156

令和元年7月26日発行

2019 JULY



みんなで復旧祝った布沢「春待ち橋」

P 7に関連記事

分かりやすく伝わる誌面になっていますか？



只見町議会中継は、只見町議会
ホームページからも視聴できます。
←議会中継へ

「八十里越」あと4年 2

6月会議終わる 4

追跡 住民意見のその後どうなった 7

一般質問・9名が町政をたず 13

あらまし

全 員
協 議 会

只見町議会では、直面する重要課題について全員協議会「政策研究会」の中で協議が進められています。今回は、①「八十里越」開通工事に向けた叶津住民説明会の内容、②道の駅計画の答申、③議員のなり手不足を今後どう解消するかなどが話し合われました。

①地元の夢「八十里越」

あと4年

叶津地区で計画説明会

住民の悲願である国道289号「八十里越」の改良工事の完了があと4年に迫った。当国道は、福島県の南部軸に当たる重要路線に位置付けられ、今後の地域経済の活性化に大きな期待が寄せられている。只見町の玄関口となる入叶津集落への道路計画説明会が福島県と只見町によって行われ、集落の安全対策、新たな宅地の確保、今

集落の安全対策などを説明

後の除雪の拠点整備計画などが示された。今後、第2回目の説明会が予定される。議会も4年後の開通に向け全力を尽くしていく。

八十里越が開通すると



令和元年「八十里越」事業概要説明会

国、新潟県、福島県による国道289号「八十里越」の事業概要説明会が開催された。両市町議会、執行部が参加した。なお、期成同盟会総会も当日開催された。

日時 令和元年7月18日～19日
場所 季の郷 湯ら里



八十里越に生息している貴重な動物

自然を守りながら工事が進められている

議会の 視点

過去の反省を踏まえて

過去に「道の駅計画」がストップした反省を踏まえ、まず計画段階から運営に携わる人材確保を優先すべき。担当委員会では地域おこし協力隊も方法の一つとしている。

「道の駅」計画について、審議会の答申を踏まえた基本構想案が示された。議会は、建設計画と同時に運営母体の検討やスタッフの人材確保を急ぐべきとした。また、商業地域に商業施設を建設する問題などが意見として出された。今後更に協議を進めていく。



地元野菜が並ぶ日も

審議会が答申

②「道の駅」計画



③議員のなり手不足を考える 女性や若者が参加できる議会に

原因4 兼職・兼業などの法規制から立候補できない現状がある。

原因3 高齢化等により地域の立候補予備軍が減少し、議員候補が限られている現状がある。

原因2 報酬の低さに加え、定数削減で当選ラインの上昇も原因とされている。

原因1 議員や地域力の低下が原因の一つとされている。住民とともに歩む議会が求められている。

なぜ、「なり手不足」

問われるなり手不足

全国的課題となった議員の「なり手不足」、今2つの意味から定数や報酬のあり方が問われています。1つは、議会活動が住民に見えづらく不要論の立場から定数削減が主張されている。もう1つは、住民自治を活性化させ持続可能な地域を目指すための定数や報酬を考える視点。

大切な視点

視点1 例えば、定数半減で報酬を増やす。

一見住民理解が得やすいように聞こえるが、定数はその町の住民自治を行なうのに必要な議員の数で報酬とは別に議論する必要がある。

視点2 行政改革は削減と効率性をどう実現するかだが、議会改革は住民自治を充実させるための議会の機能をどう高めるかの視点で議論が必要である。



全員協議会「政策研究会」で協議されている

これから

議員定数は、自治体が自らの責任で決める今後どういう議会であるべきか。「議会のビジョン」を示し、町民と議論しなければならぬ。

米のブランド戦略

6月 会議



只見産米の6次化が待たれる

6月会議は5日に第1回会議が開会され、民具収蔵庫新築工事予算、除雪車両の購入、湯ら里の送迎バス購入の契約議決が可決されました。また11日から14日までは第2回会議が開会され、特に一般会計補正予算では、①米

議会の視点

米の食味向上の努力が実りうまい米が採れるようになった。もっと積極的なブランド戦略が必要だ

一般会計補正予算のうち、農業振興費として只見産米の販売強化のための委託料が可決された。

③こぶし苑の新調理システムなどに質疑が集中しました。一部に反対討論もありましたが原案のとおり可決されました。

生産者の顔が見える商品づくり

只見産米の消費拡大へ向けたPR強化がねらい。ユネスコエコパークで生産される良質なおいしいお米としてPRしていく。お米マスタワーを招いて、おいしい炊き方、加工、六次化商品の開発等の講習、講座等を計画する。

意見書採択

新たな過疎対策法の制定に関する意見書が提出された。過疎地域が果たしている多面的・公共的機能を今後も維持していくためには引き続き過疎地域に対する総合的かつ積極的な支援を充実・強化し、住民の暮らしを支えていく政策を確立・推進することが重要であるが、現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は令和3年度末を持って失効するため、新たな過疎対策法の制定を強く要望する。

契約議決

次のとおり、工事請負契約などを議決した。

民具収蔵庫新築工事費	4億4895万円
除雪ドーザ購入費	2052万円
ロータリ除雪車購入費	4147万円
小型バス購入費	885万円



29年7.18災害で被災した布沢の旧「川和久橋」が名称を「春待ち橋」に変え復旧した。渡橋式には大勢の区民が完成を祝った。対岸には、桜の苗木60本が植えられ、カタクリの丘とともにむらづくりの拠点が完成した。

議会の視点

今回の災害復旧補正予算審議で、29年災で被災した布沢の「川和久橋」の反省から、従来の集落発注での復旧のあり方に意見が出され、今後再検討すべきとした。

町は、8年前の新潟・福島豪雨災害以来、早期の復旧を目指すために、原則集落区長の発注を基本として災害復旧に当たってきた。しかし、先の7・18災害で被災した布沢の集落橋を復旧させる際、県との協議、膨大な資料の提出、技術者の課題など集落対応に困難が生じたことから、議会の意見に町当局も見直す意向を示している。



災害復旧

集落任せでいいのか

町・見直す意向

早期復旧のため取った措置だったが…

こぶし苑などの給食 新 調理業務へ移行



これからもあたたかい給食を

こぶし苑などの給食を委託していた業者から人手不足を理由に撤退の申し入れがあり、調理専門スタッフでなくとも給食を提供できる最新の調理システムを導入する予算が可決された。冷凍の食材を利用することで人手不足に対応していく。今後、こぶし苑、診療所、あさひヶ丘デイサービスで利用される。

町の視点

給食は一時もストップができない。人手不足の中で長期的な安定策として機械導入を決定した。

条例改正

国保税

医療給付費分で値上げ

医療給付費分の所得割0.46%、均等割（1人当たり）700円、平等割（世帯）400円の値上げが提案され、賛成多数で可決された。

反対討論

山岸国夫 議員

値上げにより年金生活者は所得が減り生活を圧迫する。基金1億円の一部を有効活用し、今生きている町民の負担軽減を図ること。

持ち帰り議論



看護師不足で入院制限が続く診療所

町民の声

医師が1名減り、看護師不足で入院できなくなるという話を聞く。町民の最大の関心事だ。住民説明が無いまま経営方針を変えるのは理解できない。議会としてしっかり対応してほしい。

意見

看護師不足は町民最大の関心事

対応

全員協議会、担当委員会で徹底議論

結果

3月県に緊急要望・現在も公募中



地域行事にも参加している外国人研修生

只見町はかつて医師不在を経験している。議会はその反省と、想定される看護師不足を危惧し、昨年6月特別委員会を設置し、12月に総合医療機関としての診療所のあり方や職員確保などについて報告書を取りまとめた。現在のサービス低下をいち早く解消するため、看護師の早急な確保を求めている。

入院制限このまま続く可能性：

意見

外国人研修生歓迎 町の受け入れ方針を

対応

小林区から町に要望書提出

結果

町は、多文化共生推進協議会を設置

この件は、「要望書」が町に出されていたが、議会との懇談会の席でも小林区より要望が出された。内容は、町の受け入れ基本方針、連携体制、情報提供などを求めるもの。これを受け町は、「多文化共生推進協議会」を設置した。

多文化共生推進協議会設置

町民の声

4月から改正入管難民法が施行され、若者が海外からやってくる。その受け入れ集落や住民の対応について、町の方針を示して欲しい。

住民懇談会の意見 その後どうなった。 貴重な町民の声

意見

対応

結果

危険空き家の早期対策を、景観の悪化も

常任委員会の研究テーマに

町条例改正で総合的な対策検討

町民の声

集落内の危険空き家に困っている。子ども達の通学に危険もある。町の対応もなかなか進まない。議会としてもしっかり取り組んでほしい。

担当委員会のテーマとして調査が続けられている。空き家対策は、国も解消や利活用を進めているが、現在、全国の市町村では法に沿った条例改正が進められており、当町もその最中にある。ユネスコエコパークの町として景観悪化も懸念されるため、調査を継続しながら早急な具体策を進めていく。



対策が急がれる危険空き家

意見

対応

結果

次の改選まで議会改革を

政策研究会のテーマとして議論スタート

住民にも問いかけ、年内目途に結論

町民の声

定数増の改革はできないのか

議員の定数削減で「なれ合い政治」の指摘もある。大事なことは、多様化した地域課題にどう対応するか。若手や女性議員をどう増やすか。なり手不足の解消をどうするかだ。集落課題が増えた今、定数増を含めた改革はできないか。

人口減少で地域課題が多様化する中、議会としての役割・機能をどう高めていけばいいのか。なり手不足の解消にどう取り組んでいけばいいのかなど、議会改革の視点で議論が始まった。今後、住民にも問いかけ年内目途に結論を得ていく。(P 3 全員協議会記事参照)



6月9日、29年災害で壊れた布沢の旧川和久橋が復旧し区民感謝の集いが行なわれました。今後は、橋と一緒に耕作されていたいなかった対岸の農地も復旧します。集いは、渡橋式の後森林の分校で行なわれ、餅まきなど大勢で祝いました。本当に良かった。心からの笑顔の一枚です。

布沢区民
感謝の集い

表紙の写真



希望の「道」

郡議員大会

7月3日、南会津町・御蔵入交流館文化ホールにおいて南会津地方町村議会議員大会が開催され、郡内各町村の要望事項が可決されました。当町では昨年に引き続き、「八十里越」の開通に向け、未改良区間の整備促進と、県道小林～館ノ川線の未改良区間の整備と通年通行の確保を強く要望し、満場一致で議決されました。



南会津の議員が一同に会して行なわれる

「八十里越」開通後の安全対策 国・県道の改良を継続要望

国道289号「八十里越」の開通を間近に控え、町内の国道には歩道の未整備区間や、道路幅員が狭く交通量が増えた際に歩行者の安全が脅かされる区間があることから、下記の事項を要望した。また、県道的小林～館ノ川線は、289号線の大切な迂回路であるばかりでなく、町内の集落を結ぶ重要な生活路線でもあるため、防雪施設の整備を進め、通年通行の確保を図ること、小林～亀岡間の未改良区間の早期改良を要望した。

国道289号「八十里越」

- * 館ノ川地内の改良整備
- * 黒谷化ヶ地内の改良整備
- * 明和橋の架け替え整備
- * 入叶津から只見区中心部へ抜ける「只見トンネル」の早期実現

県道小林～館ノ川線

- * 小川～熊倉間の防雪施設整備と通年通行の確保
- * 小林～亀岡間の改良整備



急カーブで危険な明和橋付近



長野県辰野町

千葉県柏市

視察

どう活かす？ 行政視察

経済 文教 常任委員会

柏市との経済交流を
拡大
7月4日～5日
千葉県柏市



視察の目的

千葉県柏市とは、今年
の11月でふるさと交
流都市提携締結から25年のお付き合い
になる。今回の行政視察では、これま
での交流の経過を踏まえ、今後の人的・
経済的交流のあり方を調査する。

まとめ

この25年間、絶えず
交流を促進してきては
いるものの、形骸化と関係者の高齢化
による鈍化は否めない。今後は若い世
代の交流が活発になるよう、山村教育
留学制度などをセールスしてきた。ま
た、道の駅も計画中であることから、
冬期間に柏市の商品をご提供いただけ
る可能性についても調査した。

総務 厚生 常任委員会

経験豊かな
事務長の存在
6月27日～29日
長野県辰野町



視察の目的

朝日診療所は、昨年
から看護師不足で、現
在入院制限をしている。他の医療機関
での看護師確保を調査する。

まとめ

入院ベット数100床、
医師8名、看護師77名、
売上21億。常に近郷の看護師情報を豊
富に持ち、不足に対応できる経験豊か
な事務長の存在が大きい。当町も事務
スタッフの強化と腰をすえて働く事務
長の配置が必要。

委員会 調査

総務 厚生 常任委員会

診療所看護スタッフ 計画通り集まらない

事務局体制の強化を

昨年6月から12月までの朝日診療所特別委員会、その後は全員協議会や総務厚生常任委員会において当局との協議が行なわれている。年齢制限を大幅に緩和した公募が行なわれているが看護スタッフ

フは計画どおり集まらない。入院はほぼ半数に制限せざるを得なく今後固定化する心配もある。委員会では、看護師確保のため事務局体制の強化を求めている。



少ない体制で日々頑張っている朝日診療所

新しい広聴のあり方

若者世代の意見をどう捉えるか



広報 広聴 常任委員会

広報広聴の新しい形を模索

広報広聴常任委員会では、新しい広報・広聴のあり方を研究している。従来の議会広報誌の発行と議会報告会、一般会議に加え、SNS（ソーシャルネットワーキングシステム）を活用した広報広聴についての検討を進めている。具体的には只見町議会のフェイスブックページを作成し、議会だよりの内容を項目ごとに配信するといった方法が考えられる。

また、SNSの双方向性にも期待しており、町民からのご意見・ご感想も随時受け付けることが可能になる。今後、運用方法など実際に向け協議していく。



只見町議会をもっと身近に

湯ら里の改修計画

増加する宿泊客の受け皿に

交流目標や課題の整理を

只見町は、宿泊人口を増やすため受け入れ体制の整備が課題となっている。その受け皿となる「湯ら里」の果たす役割は大きく、建設20年以上が経過した町の交流拠点の今後のあり方について、3月「交流施設特別委員会」が最終報告を取りまとめている。その後

の協議は担当委員会に引き継がれ、現在委員会では、今後の交流目標や受入れ体制の現状と課題の整理、その上で協議を急ぐべきとしている。既に南会津町では、既存施設の改修に着手しており、町長は年内に方向性を決めたいとしている。



町は交流人口が増えつつある

陳情

経済文教常任委員会に付託され、6月20日の審議で委員会審査が終了した。なお、今後本会議で採決される。委員会での審議結果は以下のとおり。

請願件名	請願者	審議結果
教職員の長時間過密労働の解消に向けた意見書提出を求める請願書	福島県教職員組合南会津支部 支部長 渡部 秀和	委員会としては、県、町の教育現場でも教職員定数や、少人数学級編成の見直しが必要と認識し、採択すべきものと決定した。
「令和2年度及び復興・創生期間後も国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める請願書	福島県教職員組合 中央執行委員長 角田 政志	委員会としては、現在も避難生活を送っている子どもたちがいる状況からも、就学支援事業の継続は必要と判断し、採択すべきものと決定した。
「ふくしま学力調査」中止の意見書提出を求める請願書	福島県教職員組合南会津支部 支部長 渡部 秀和	委員会としては、請願書の内容の事実確認が出来なかったこと、本町では有意義に活用していることから、中止の必要はないと判断し、不採択すべきものと決定した。

議会運営委員

政策研究会の開催を決定

5月9日の会議で、全員協議会（政策研究会）で今後下記を協議していくことが決定された。

- ◆議員の政治倫理について
- ◆議会機能と議員定数について
- ◆議会運営のあり方について
- ◆町政の現状の課題について





ブナりん

教えて! 議会のこと

Vol.20



アカショウちゃん

『議会改革』って なあに?



イワっぺ

只見町キャラクター ©Tadami

みんなに代わって只見町のキャラクターたちが聞いてくれました。



ブナりん 議会改革を議論しているって聞いたけど。

議長 議員のなり手不足が全国的に問題になっているのは知っているよね。



アカショウちゃん 知っているよ。だけど只見町と関係あるの?

議長 議員は多くの町民の代表者として、町長が提案する町の予算、条例、契約などを決定することと、町に政策を提言していくことは知っているよね?

イワっぺ どういう関係あるの?



議長 これまで、議会活動に活かすために県の議員研修会・委員会の視察も年一回実施してきたんだ。さらに、これからの議会のあり方や若い人を議員に迎えるためにどのようにしたらいいのか、議員定数と議員報酬、議員の研修などについて関係する文献を参考に全員協議会で勉強しているところだよ。

ブナりん そうなんだ!!

議員も大変だけど町民の声を大切にして頑張ってるね!



只見町議会中継は、
只見町議会ホームページから
視聴できます。





一般質問

- **佐藤 孝義** 14
小学校統合の検討は
- **大塚純一郎** 15
塩沢駅を河井記念館前に
- **藤田 力** 16
自然ガイドの増員組織化を
- **鈴木 征** 17
只見地区のほ場整備計画は
- **目黒 仁也** 18
危機感で『攻めの行政』を
- **鈴木 好行** 19
只見駅の整備、改修計画は
- **酒井 右一** 20
医療現場の危機を問う
- **山岸 国夫** 21
給食に地元産食材を
- **目黒 道人** 22
観光ドメイン町管理へ

町政を問う

町を想い9名が

一般質問とは

議員が行政全般（役場の仕事全般）に対して、方針をただしたり政策の提言などを行うことです。

小学校統合の検討は

答 慎重に検討



さとう たかよし 議員
佐藤孝義

	只見小学校区	朝日小学校区	明和小学校区	合計
6年生	8	10	10	28
5年生	11	12	12	35
4年生	12	5	9	26
3年生	5	4	12	21
2年生	11	7	8	26
1年生	3	6	5	14
5歳	8	10	8	26
4歳	6	7	7	20
3歳	6	6	10	22
2歳	2	9	6	17
1歳	11	3	13	27
0歳	4	8	4	16
合計	87	87	104	278

平成31年4月現在

問

町内児童の急激な減少から、統合を検討する時期が来ていると考える。今年度町内3小学校の学年別児童数と0歳児から来年度入学予定児までの人数を表で示せ。

答

人数は表のとおり。

問

大規模校と小規模校との基準はあるのか、あるとすれば教員人数等、規制はあるのか。

答

法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準で、下回ると標準規模未満の学校となる。また、弾力的特例もある。教員定数は、小学校の場合、養護教諭を除いて12学

答

通学距離や地域の活性化への影響等の課題があると認識している。町立小学校のあり方検討懇談会の報告を踏まえて慎重に検討していく。また、保育のあり方等も、年内には保護者向け意向調査を実施し、今後の方向性を検討していく。

問

併せて3保育所の統合も検討が必要だと思いがいかか。プロジェクトチームが生きているのであれば、重要な課題として取り組むべきと思うが町長の見解を問う。

公共施設の再配置計画を

答 審議会で検討

問

町内全体の公共施設の見直しと空き家を含む住宅問題解決を進めるために、外部有識者を入れた検討委員会を立ち上げてはどうか。

答

只見町公共施設等総合管理計画の中で、公共施設等の再配置について協議する只見町地域計画審議

問

プロジェクトチームが生きているのであれば、重要な課題として取り組むべきと思うが、町長の見解は。

答

基本は昨年の単年度事業であ

会条例を定めてあり、空き家関係も必要な時期に外部有識者を含めて検討していく。

り、本年度は、第7次振興計画の3年経過後の評価検証の年にあたるため、昨年度プロジェクトチームが作成した資料を活かし、各課連携のもと、別の形ではあるが、効率・効果的に評価検証を行ない、新たな事業展開を検討していく。

塩沢駅を河井記念館前に

答 JRと協議する

問 町は平成26年にユネスコエコパーク登録となった。現在、令和3年のJR只見線の再開通を目標に復旧工事が急ピッチで行なわれている。さらに、令和5年の国道289号八十里越の開通を目標に、国、県が工事を急ピッチで進めている。今年は町制施行

答 60周年を迎えるが、今後どのような誘客計画を持って観光施策を進めていくのか。

答 交流人口の拡大に向けて効果的な施策を展開していく。今年度は、奥会津ただみの森キャンプ場をリニューアルオープンした。また、森林の分校ふざわや季の郷湯

ら里などと連携した自然体験型観光を進めるため、観光まちづくり協会などと連携して様々な誘客活動を展開していく。

問 観光誘客を図る上で、一番重要なことは受け入れ態勢の充実、整備だと思う。ビューポイントの整備や国道沿いの除草作業

の徹底、河川内のやなぎ等の樹木伐採など、自然環境を整えることが必要だ。

答 今だからこそ、会津塩沢駅を河井継之助記念館の前に移転整備すべきと思う。

答 JR東日本や県と協議し、駅の移転整備ができるかどうか可能性を要望していく。



おおつかじゅんいちろう
大塚純一郎議員



来館者数が増え続ける河井記念館

人口5000人政策を

答 移住定住促進プランで進める

問 町が生き残っていくためには、スピード感を持って、具体的な魅力ある政策を、大胆に思い切って実行していくことが求められている。具体的な政策は。

答 今年度から、町の地方創生推進交付金事業として、移住支援事業が実施される。町内への就業推進のため企業に対して、県のマッチングサイトへの登録を促している。町として「移住コーディネート」を配置し、移住体験ツアーを企画し、移住希望者が町内で安心して暮らせるための総合的なサポートを行なう。また、町営住宅の整備、空き家の利活用の推進支援の拡充を図っていく。

自然ガイドの増員組織化を

答 活動状況を見て検討



ふじ ちから
藤 田 議員

問

最近、観光関連が低迷している。活性化させるにはユネスコエコパークに認定された素晴らしい自然を観光誘客につなげるのが効果的だ。そのためには、専門知識を持つ公認自然ガイドを増やし、訪れた観光客に只見の素晴らしさを体感してもらうことが大事だ。ガイドの活動状況と、ガイドの増員や組織化する考えはないか。

答

公認自然ガイドが観光協会の要請を受け、町の自然や

文化を紹介している。増員については、これまでの活動状況を見て検討したい。

問

ガイドは何名いるのか。ガイドを頼むときの「流れ」はどうなるか。また、ガイドの本部はどこか。

答

25年の発足時16名で、現在は21名いる。観光協会が窓口になって対応している。本部という組織になっていない。

問

観光協会の窓口は便宜上、その役割を果たしていることだと思う。スムーズに観光誘客を進めるには法人組織のガイド協会を組織化するのが一番良いと考えるが。

答

ガイドは、公認自然・河井継之助・森林の分校ふざわ・街中と活動されている。どの形で組織化するか検討したい。

河川改修説明会を早急に

答 強く県に要望

問

新潟・福島豪雨災害から8年、八木沢から伊南川合流点までの河川改修説明会を早急に開催すべきと考える。

答

県では来年度、改修設計が完了後に地元説明会を行なうながら工事を進める予定だ。町としても早急に地元説明するよう強く要望したい。

問

町民は、説明会がいつあるか。着工はいつかを待っている。

答

今年度中に詳細設計が完成する。その後、地元説明会となる。柴倉橋上流の中島の撤去も土地の買収ができれば検討したいと説明している。



大量の土砂が堆積する伊南川・只見川合流点

只見地区のほ場整備計画は

答 令和5年着工予定

問 只見地区の農地は昭和の耕地整理のままで近年管理されてない農地も目立ち景観上も良くない。今後の事業計画を問う。

答 新町地区の一部を除き、大正から昭和に整備された小区画の農地が主で道路幅も狭く農業生産効率

が悪い状況にある。県と事前協議を重ね本年事業採択となった。今年度は、地区の現況、水路調査などを行ないながら地元協議を重ねていく。

今後事業計画が認められれば受益者負担はない。工事は調査設計などを経て令和5年着

問 工を見込んでいます。農家負担についても一度詳細を伺いたい。

答 一定の要件を満たせば受益者負担はない。その要件は、今後の只見地区の農地を誰が守っていくか等事業計画で定めなければならない。

問 小規模で後継もなく農地を手放したい人も多い。離農希望者の扱いはどうなる。

答 お金で精算する方法もある。価格は地域で決めていた。また、中間管理機構に預ける方法もある。

問 只見町に小規模農家の基準はあるのか。

答 規模、収入などから考えられるが、定まった定義ははっきりしない。

問 担い手の確保見通しは。また、只見地区の農業振興の考え方は。

答 担い手については、3農家が共同でライスセンターの整備が計画されている。只見地区の農地は26ヘクタール、この最大受け入れは50ヘク



近年管理されていない只見地区の農地

問 タールで作業受託が主になる。今後の農業振興については、トマトや米が主体になると考えている。米をつかった六次化、米粉なども始まっている。

答 とれる。只見のうまいコメとして売り出すことも考えられないか。とにかく今は、土地改良事業で効率化を目指していく。その後町全体の中で販売などについては考えていきたい。

すずき 鈴木 征議員

担い手確保の見通しは

答 新たなライスセンターでの受託も

危機感で『攻めの行政』を

答 湯ら里は年内に結論



めぐろじんや
目黒仁也議員

問

観光交流を進める受け入れ態勢が弱い。現在、町全体の宿泊収容は、約680名だが、今後この収容人数の目標値はあるのか。

答

数値は持ち合わせていない。

問

今後町が交流人口を増やす上で、公共施設である湯ら里の役割は大きい。目標値があつて改修計画も始まる。仮に、湯ら里が部屋数を増やし、現在の年間約1万人の宿泊が倍の2万人集客できたとすれば収益改善

は大きい。

答

湯ら里の位置づけは重要と認識している。相当の投資になるので十分に検討が必要だ。

問

経営を考えるからこそ、改修が必要だ。いつまでに答えを出されるのか。

答

年内には方向性を出したい。

問

人口減少に立ち向かうのに、今まで通りのやり方、考え方の延長線上に光が見えるのか。町長以下職員、我々、町民、より以上の危機感とチャ



農家民泊交流が増えている

レンジ精神を持っていく必要がある、攻めの行政を望む。

答

のんびりしていただく考え方はない。早期に出すべきは、早期に結論を出していく。

公募のやり直しを

答 次年度からの対応

問

3月に障がい者施設『じねんと』の委託事業者決定の競争性について指摘した。規則に沿った、そして、地域も県なり会津なりを含めてプロポーザル方式を採用する答弁だったが、結果として一者にだけに公募情報が流れた結果だ。

答

1年契約で業務が進んでいる。次年度からの対応で検討したい。

問

約束できるか。

答

主旨尊重し、来年度以降実施する。

答

公平性からホームページを採用したが、他に情報が分かりづらかった点は反省がある。今後は地域限定も検討する。

問

結果して競争性が生まれていない。競争に参加したい事業者様が参加できない。年度中もう一度公募をやり直す考えはないか。

只見駅の整備、改修計画は

答 全線再開通を優先

問 JR只見線の再開通を見越して只見駅とその周辺の整備、改修が必要と考えるが、計画はあるか。

只見駅の利用人数はどの程度の増加を見込んでいるか。

答 JR只見線はJR東日本であり、改修には協議が必要だ。今は全線再開通を優先して進めて行く。

問 「只見線観光路線化モデル創出事業」の実施により、

駅の所有者はJR東日本であり、改修には協議が必要だ。今は全線再開通を優先して進めて行く。

問 JR只見駅、会津蒲生駅、会津

塩沢駅周辺の環境整備

答 豪雨災害前の利用客数1日49人を、全線再開後は1日100人とすべく、観光まちづくり協会に事業委託して実施している。

問 JR只見駅、会津蒲生駅、会津塩沢駅周辺の環境整備

も必要と考えるが計画はあるか。

答 JR只見駅前の駐車場は土地所有者が入組んでおり、その解消ができれば整備を進めたい。会津蒲生駅、会津塩沢駅については、観光スポットまでの道中の環境美化、観光客を楽しませる工夫を検討する。

問 只見駅に降りたときの観光案内看板が目立たない。整備計画はあるか。

答 四季折々の看板等も含め、検討する。

問 JR只見駅、会津蒲生駅、会津塩沢駅周辺の環境整備

も必要と考えるが計画はあるか。

答 JR只見駅前の駐車場は土地所有者が入組んでおり、その解消ができれば整備を進めたい。会津蒲生駅、会津塩沢駅については、観光スポットまでの道中の環境美化、観光客を楽しませる工夫を検討する。

問 只見駅に降りたときの観光案内看板が目立たない。整備計画はあるか。

答 四季折々の看板等も含め、検討する。

三石神社周辺の観光開発は

答 区や牧野組合と連携して対応



整備が望まれるJR只見駅

問 JR只見線の再開通や道の駅の建設を控え、三石神社を中心として、瀧神社、ゆり平、スキー場の夏季利用、要害山を巡る観光スポットの整備が必要と考える。計画はあるか。

答 三石神社は重要な観光スポットの一つと認識している。現在は只見区や牧野組合において良好に管理していただいている。スキー場の夏季利用については土壌が悪いことから、有効な活用方法を見出せていない。

問 花を植えたり、ウサギや羊などの小動物と触れ合えたり、蛍や水生昆虫等を観察できたりするなどの周辺整備を行なうと共に、案内看板の充実を図り、交流人口の拡大に向けて取り組んでいるかがか。

答 三石神社周辺の観光開発についてはいただいた提言を含めて、関係者と連携しながら対応して行く。

問 JR只見駅、会津蒲生駅、会津塩沢駅周辺の環境整備

も必要と考えるが計画はあるか。

答 JR只見駅前の駐車場は土地所有者が入組んでおり、その解消ができれば整備を進めたい。会津蒲生駅、会津塩沢駅については、観光スポットまでの道中の環境美化、観光客を楽しませる工夫を検討する。

問 只見駅に降りたときの観光案内看板が目立たない。整備計画はあるか。

答 四季折々の看板等も含め、検討する。

給食に地元産食材を

答 生産と消費を含め検討

問 給食センターの
小中学生への給
食提供は、食育の面か
らも重視されてきた。
特に地元産食材を活か
して只見町の良さを子
どもたちに伝承するこ
とは大事だ。地元産野
菜を持続的に提供する
体制づくりを町はどの
ように進めるのか。

答 学校給食セン
ター運営委員会

委員からの紹介で新規
納入者の拡大を図って
いるが、新たな仕組み
づくりも視野に入れた
い。

問 給食センターへ
の野菜の納入は、
応募では進まない。直
接依頼し協力を得るこ
とが必要。町の体制構
築が必要である。担当
課を明確にすること。

町内の関係者と
の連携を図りな
め検討する必要がある。
対策室、農林建設、教
育委員会と振興セン
ターも含め議論してい
く。

答

町内の関係者と
の連携を図りな
め検討する必要がある。
対策室、農林建設、教
育委員会と振興セン
ターも含め議論してい
く。



やまぎしくに お
山岸国夫議員

健診負担額の軽減を

答 次年度からやり方を検討

問

今年度の総合健
診の内、胃がん
X線検査（バリウム）
の受診会場が昨年度と
比較して7会場で検査
がなくなったが、昨年
と比較した受診者の変
化と、これまで同様の
会場で受診できるよう
にしてほしい。

答

胃がん検査方法
がX線から胃力
メラへの切替えの検討
が背景にある。これま
での検査委託先が車輛

老朽化と更新を行なわ
ないことで会場を調整
した。受診者は昨年比
8人減、3年前比45人
減となっている。

問

特定健診の自己
負担額が国保加
入者40歳以上で100
0円から1500円
に、16歳以上39歳以下
は無料から500円に
増えている。近隣町村
では、健康診査特定健
診の個人負担額を全検
査無料・一部無料化し

ている。町も軽減処置
すべき。

答

特定健診自己負
担額の増は、心
電図・眼底・貧血検査
の追加検査実施の24
58円の内500円の
自己負担となっている。

問

受診率引き上げ
と町民の健康守
るためにも軽減を。

答

次年度からやり
方について検討
したい。



給食センターに納入される地元産食材

観光ドメイン町管理へ

答 指定管理者と協議



議員 黒道 ぐろみちと



観光施設のドメイン管理は町の責任です

問 今年浅雪のため六十里越の開通も早く、観光客が増えている実感があるが、観光施設の案内はもっと親切であるべき

答 確かに案内看板が少ない。現在、指定管理者等と協議中だ。観光シーズンでもあり、とり急ぎ簡易的にはなるが案内看板の設置を急ぎたい。

問 インターネットでの情報提供も

と考える。恵みの森など山間の奥地にある観光地への案内がほぼ無いため、初めて向かう観光客は途中で不安になると聞く。現状はどうか。

問 亀岡スポーツパークにおけるイベント開催など努力はされているものの、オープン当初に期待したほどの誘客効果は出ていないと感じる。この状況を踏まえるとチャレンジショップとして設置されたトレーラーハウスのあり方について

亀岡チャレンジショップの移動を

答 これまでではない。同様に感じている。特に町が管理する観光施設では独自ドメインで運用されていないところもある。独自ドメインを提案された経緯はあるか。

問 利用事業者の人生がかかっている。多くの場合、チャ

答 トレーラーハウスは移動できる仕様にはなっているが、今の時点で移動は考えていない。

問 独自ドメインで運営されるサイトは一次情報として信頼されるものだ。また様々な印刷物にウェブサイトの記載がされているため、指定管理者が変わる度にドメインが変わっては困る。ドメインの取得・管理は

答 町の管理物件として取り扱ってはどうか。ご指摘はその通りなので、指定管理者と協議したい。

答 レンジショップは人通りのある商店街の中にあるものだ。現在地は適さない。事業者育成のためにもスポーツパーク構想とは切り離して考えられないか。

答 今後検討していきたい。

答 今後検討



子供達は地域の宝

6月3日令和元年の定例会が福島市で開催され、平成30年度事業報告と決算報告を協議。今年の事業計画では原発風評被害の払拭、J R只見線の早期災害復旧などの国要望、国道289号線の整備促進などが決議された。

教育文化振興などを決議

その他、下記の重点事項などが決定した。

- 教育文化振興
- 少子化対策の強化
- 地方創生の推進
- 地方分権改革の推進
- 町村財政基盤の強化
- 地域医療の向上
- 議員なり手不足対策の強化



勤続11年議員に表彰状を伝達（6/11議場）

中野 大徳
大塚純一郎
佐藤 孝義
酒井 右一
藤田 力

6月3日に開催された福島県町村議会議長会令和元年度定期総会において、齋藤邦夫議長が特別功労者として、次の5名の議員が自治功労者として表彰が決定され、6月第2回会議で表彰状が伝達された。

議長動静

抜粋してお知らせします。

復旧後・利活用策最重点

平成25年に柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町の奥会津五町村で組織された。最大の目的は、豪雨災害で被災したJ R只見線の復旧を目指して目的達成のための活動を連携して行なうもので7年が経過した。

6月3日令和元年の定例会が福島市で開催され、平成30年度事業報告と決算報告を協議。今年の事業計画では、特に只見線復旧後の利活用を最重要課題として取り組むこととした。



賑わいを取り戻せ只見線

表彰

6議員に

功労者表彰

只見での貴重な体験



只見高校 2年

は せ が わ あ き ひろ
長谷川 晃 裕

私は、昨年(2021)の4月に新潟からこの只見町に山村教育留学生として来ました。自然首都の名のとおり、この只見の地は豊かな自然で溢れています。そのような素晴らしい環境で日々学校生活をのびのびと楽しんでいます。また、この只見に来て、他の場所では難しいであろう様々な経験をする事ができています。7月末にはR289に参加します。

R289には昨年も参加しました。道中、大変急で険しい上り坂があり、必死にペダルをこいだことが大変印象に残っています。苦勞しながらもゴールした時の達成感は最高で、一生忘れられないものとなりました。こういった経験ができる只見に来て良かったと思っています。

心温かい只見で



只見高校 2年

わ た な べ は る き
渡 部 春 輝

私はこの只見の地で生まれ、17年間只見に住んでいます。振り返れば、家族や地域の方々に支えられたおかげで無事17年間過ごすことができましたと思っています。

「地域の方々に支えられる」というこの言葉について、日常生活の中で考える機会が多くあります。只見は小さな町だからこそ、このような言葉が身近に感じられる環境があると思います。誰かに会えば笑顔で挨拶し、時にはそのまま立ち話をしながら互いの近況報告をしたり、何気ない会話で互いに笑いあったりする場面をしばしば見かけます。そして、そのような会話は年齢の壁を越えて行われています。互いに互いを気に掛け合いながら、一つのコミュニティを作り上げていこうとする部分が只見町の良さだと考えています。

もし将来私に子どもができたら、只見町のような温かい心で溢れた場所で育てたいと思っています。

編集後記

元号が令和になり、新しい時代が幕を開けました。平成の改元とは違い、祝福ムードで温かなスタートが切れたのではないのでしょうか。さて、今年(2022)は記録的な暖冬だったために野生動物の活動が活発なんだそうで、なんとなく子ネズミが多いような気がしています。農作物への影響が心配なので、野生動物ばかりが活発に増えるようではいけません。わが町にも令和ベビーがたくさん生まれるような、温かな時代にしたいものです。

(目黒 道人委員)

発行責任者

議長 齋藤 邦夫

広報広聴常任委員会

委員長 目黒 仁也

副委員長 目黒 道人

委員 藤田 力

大塚 純一郎

山岸 国夫

鈴木 好行